

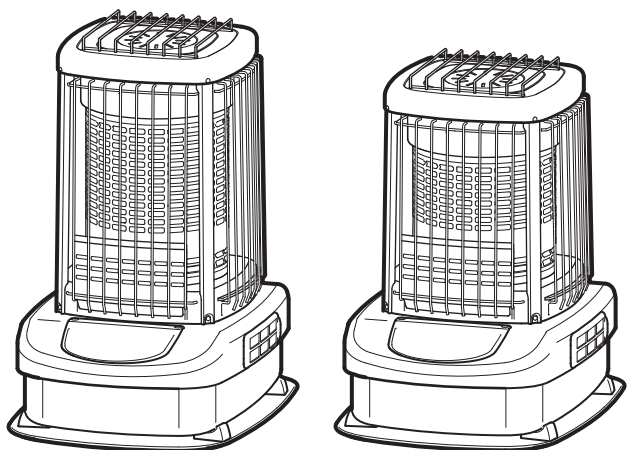
CORONA

コロナ石油ストーブ（自然対流強制通気形開放式石油ストーブ）〈業務用〉

取扱説明書

正しく使って上手に節約

型 式 **GH-C19N・GH-C12N**



GH-C19N

GH-C12N

このたびは、コロナ石油ストーブ（GH形）をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に「保証書」と共に大切に保管してください。

この製品は日本国内専用です。電源電圧や電源周波数の異なる外国では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This product is designed and manufactured for use only in Japan. In another country which differs in voltage and frequency of the power supply from Japan, this product cannot be used and any after-sales service is not available.

燃料は必ず良質の灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

危険



KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油

警告



換気必要
1時間に1～2回

寝るとき消火

スプレー缶厳禁

注意

変質した持ち越し灯油
使用厳禁

もくじ

	ページ
1 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください) — 1～3	
*灯油の廃棄について —————	3
2 使用する場所 —————	3
3 各部のなまえ —————	4
●外観図 —————	4
●構造図 —————	4
●操作部・表示部 —————	4
4 使用前の準備 —————	5～6
●使用前の準備 —————	5
●使用燃料 —————	5
●給油 —————	6
●点火前の準備と確認 —————	6
5 使用方法 —————	7～9
●点火 —————	7
●室温の調節 —————	7
●炎の状態 —————	8
●消火 —————	8
●タイマーの使用方法 —————	8～9
6 安全装置 —————	9
7 日常の点検・手入れ —————	9～10
8 定期点検 —————	10
9 故障・異常の見分け方と処置方法 —————	11
10 部品交換のしかた —————	11
11 保管(長期間使用しない場合)・廃棄のしかた —————	12
12 仕様 —————	12～13
13 アフターサービス —————	14
14 排気筒の取付け —————	14
15 お客様ご相談窓口 —————	裏表紙



株式会社 **コロナ**

1 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険 この表示を無視して、誤った取り扱いを
すると、人が死亡、重傷を負う危険または
火災の危険が差し迫って生じることが
想定される内容を示しています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いを
すると、人が死亡、重傷を負う可能性ま
たは火災の可能性が想定される内容を
示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いを
すると、人が軽傷を負う可能性や物的損
害の発生が想定される内容を示してい
ます。

本文中のマークは、次の意味を表します。

			このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
			このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

危険 (DANGER)

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。



警告 (WARNING)

スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発し、危険です。



- 特に、ボンベがセットされたカセットコンロなど危険ですので、温風のあたるところには置かないでください。

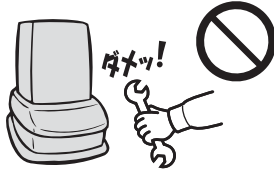
分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口へ修理を依頼してください。



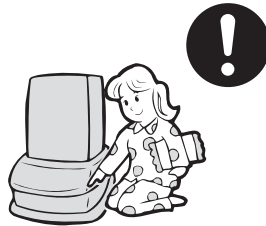
改造使用の禁止

改造して使用しないでください。安全装置の無効化など機器の安全性を損なう改造は、火災など思わぬ事故の原因になります。



寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火してください。また、人目の届かないところでは、使用しないでください。不完全燃焼や異常燃焼・火災のおそれがあります。



可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ベンジン、シンナー、ガソリン)、スプレーなどを使用しないでください。火災や故障の原因になります。

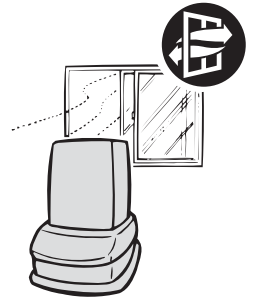


換気必要

換気せずに使用しつづけないでください。

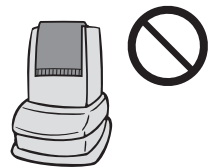
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。

使用中は必ず1時間に1~2回(1~2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。換気するときは、換気扇を使用したり、窓や戸などを2カ所以上開けると効率よく換気ができます。換気が十分におこなえない場所(窓が凍結している部屋、地下室など)では、使用しないでください。



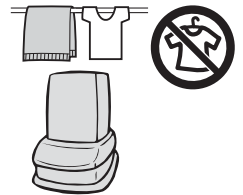
温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。



衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。



やかんのせ禁止

やかんやなべなどをのせないでください。振動や接触によってやかんやなべなどの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。また、なべの煮こぼれによって器具内部の部品が損傷するおそれがあります。



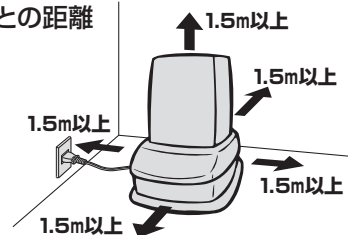
警告 (WARNING)

可燃物近接厳禁

カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそば、ほこりの多い場所などでは使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物とは図に示す距離を確保してください。



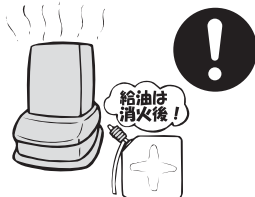
可燃物との距離



注意 (CAUTION)

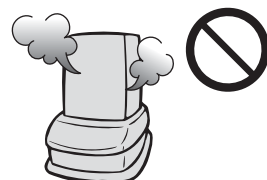
給油時消火

給油は、必ず消火し、火の気のないところでおこなってください。こぼれた灯油は、よくふきとってください。給油口ふたは確実に締めてください。火災のおそれがあります。



異常・故障時使用禁止

油漏れや臭い、すすの発生、炎の色など異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因となります。



「故障・異常の見分け方と処置方法」

(11 ページ参照) に従って処置してください。

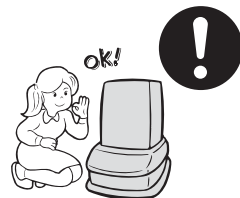
腰をかけたたり物をのせない

腰をかけたたり、やかんや花瓶などの物をのせないでください。やけどしたり、ストーブが変形することがあります。また、水が内部に入ると感電、火災、故障の原因になります。



正常燃焼の確認

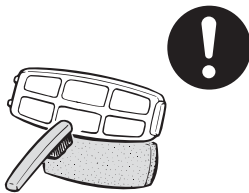
正常に燃焼していることを確かめてください。(8 ページ参照)



- 燃焼に必要な空気の濃度が薄くなる高地 (標高500m~1500m) では、高地補正が必要です。お買い求めの販売店にご相談ください。

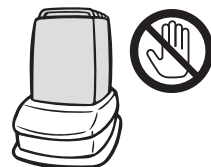
ほこりの除去

燃焼空気取入口のエアフィルタと内部フィルタは、週1回以上必ず掃除してください。ごみ、ほこりなどでエアフィルタと内部フィルタのスポンジが詰まると、異常燃焼のおそれがあります。



高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部 (図の色の濃い部分) に手などふれないように注意してください。やけどのおそれがあります。



- 小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

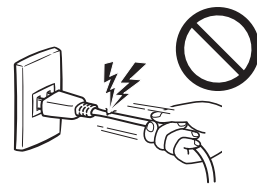
指や異物を入れない

温風吹出口やストーブの内部には、紙・布・プラスチックなどの異物を入れないでください。発煙・発火のおそれがあります。温風空気取入口の中に、指・棒・針金などを差しこまないでください。けがをするおそれがあります。



電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



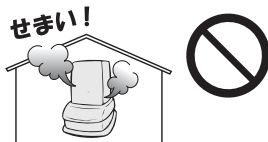
運搬するとき

ストーブを運搬する場合は、油タンク内の灯油を抜いてください。運搬の途中で灯油がこぼれて周囲を汚すおそれがあります。



せまい場所での使用禁止

あまりせまい部屋 (8畳以下) で使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。



電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。



日常のお手入れ時の注意

日常の点検・手入れは必ずおこなってください。

点検・手入れは消火後ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。



やけどや感電のおそれがあります。(9~10 ページ参照)

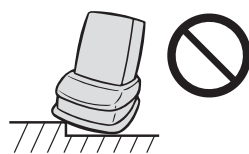
次の場所では使用しない

火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 風のあたる場所、部屋の出入口や屋外
- マントルピースなどストーブが囲われる場所
- ほこりや湿気の多い場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所
- 動・植物の育成・栽培など人のいない場所
- 標高が 1500m を超えるような高地
- 理・美容室、クリーニング店、はんだ付け作業所・メッキ・塗装工場などスプレーや化学薬品を使う場所
- コピー機の近く (写りが薄くなる場合があります)

傾き・振動注意

水平な場所で使用してください。振動の激しいところでは、使用しないでください。異常燃焼や誤作動の原因になります。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



注意 (CAUTION)

温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。温風を直接吸い込まないでください。気分が悪くなる可能性があります。



低温やけどについて

- 比較的低い温度（40℃～60℃）でも長時間皮膚の同じ所が熱せられると、熱い、痛いなどの自覚症状がなくても低温やけどのおそれがあります。
- 次のような方は特に注意してください。
 - 乳幼児、お年寄り、皮膚の弱い方
 - 眠気を誘う薬（睡眠薬、かぜ薬など）を服用された方
 - 深酒、疲労の激しい方

電源の接続

- 電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。
- 電源コードは、途中で接続したり他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。
- 発電機などの電源では、使用できません。

不良灯油使用禁止

変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼や故障のおそれがあります。

保管時にしていただくこと

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず油タンクの灯油を抜いてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。

廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を給油ポンプなどで抜き取ってください。（10 ページ参照）灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

シリコン配合製品を使用しない

ストーブの故障の原因となることが表示されているヘアケア製品などは、シリコンが配合されています。ストーブと同時に使用しないでください。燃焼部にシリコン酸化物が付着し、点火ミスや途中消火などの原因となります。



注意表示がなくてもシリコンが配合されている製品（化粧品類・保湿用クリーム、衣類の防水剤・柔軟剤、家具などのつや出し剤など）も同時使用は控えてください。やむなくご使用になる際はストーブの運転を一時的に停止し、使用後は換気を十分におこなってから運転を再開してください。シリコン配合製品が原因で修理を依頼されたときは、保証期間内でも有料となります。

※製品表示ラベルの記載内容

例)「〇〇シリコン〇〇」「〇〇シリコン〇〇」
「〇〇メチコン〇〇」「〇〇シラン〇〇」
「〇〇シロキサン〇〇」「シリカ」と成分表示されている場合があります。

使用場所の注意

- 防錆処理の施していない機械や材料が置いてある場所やメッキ・塗装、電子部品、化学、繊維関係工場でのご使用はさけてください。錆や変色を促進することがあります。
- 溶接作業や研磨作業など火花の飛散する場所では使用しないでください。ストーブの樹脂部品などに飛火し、故障や火災の原因になります。
- 化学薬品（フロンガスや塩素系溶剤）を使う場所での使用はさけてください。フロンガスなどが炎にふれると有毒ガスを発生します。



電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこむてください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手で抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



お願い (NOTICE)

灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

結露に注意

ストーブは室内で燃焼する製品のため、気密の高い部屋などでは、換気を十分にしてください。換気をしないと、壁や天井が結露する場合や結露によってパソコンや電気機器等に障害が生じるおそれがあります。

2 使用する場所

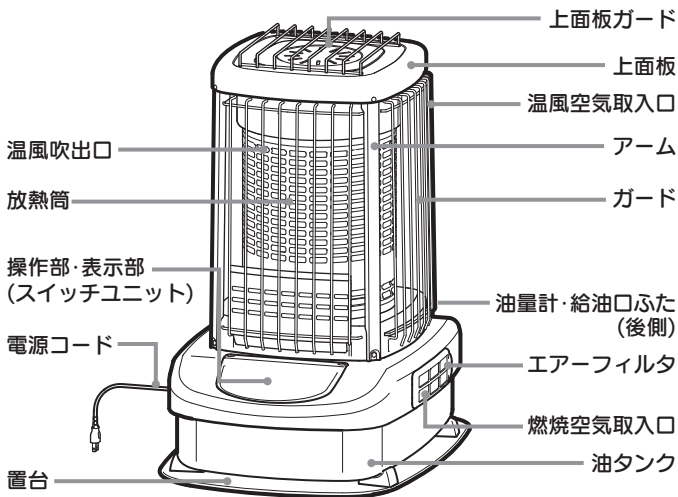
効果的に使用するために

部屋の中央に置くと暖められた空気が対流循環し、室内の温度むらが少なくなり、効果的な暖房ができます。

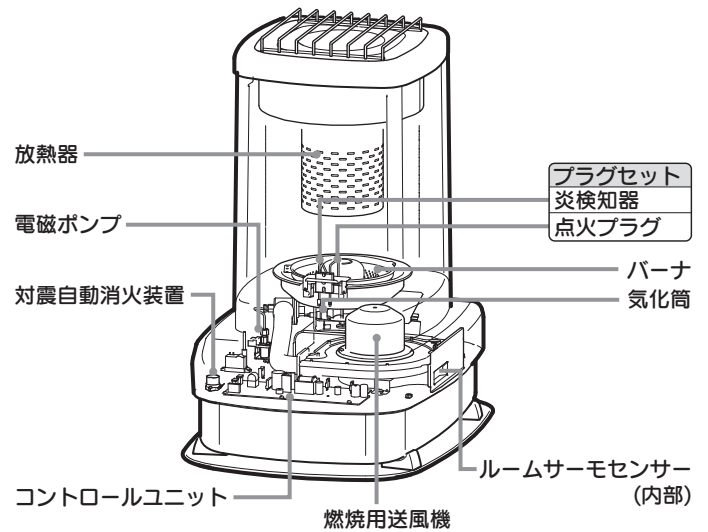
- 周囲に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、燃焼音がしたり本体内部が過熱して安全装置が作動することがあります。

3 各部のなまえ

外観図



構造図

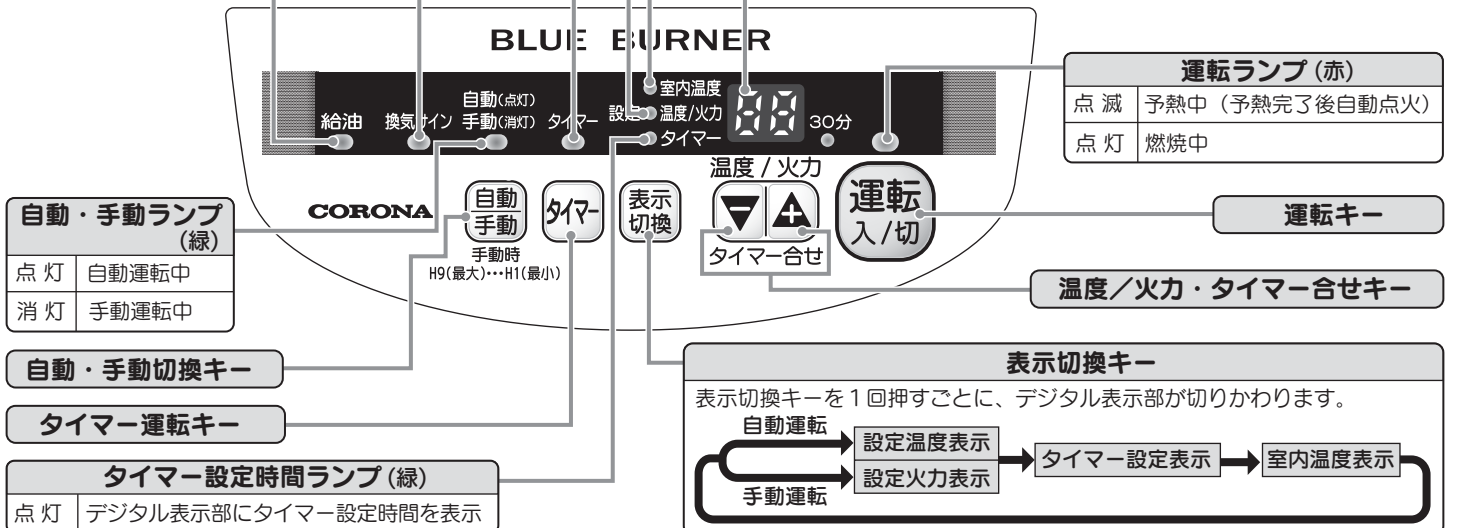


操作部・表示部

- ((●)) 表示のある項目は、点灯初期にブザーが3回鳴ります。
- ((●●)) 表示のある項目は、点灯初期にブザーが5回鳴ります。

室内温度ランプ (赤)	
点灯	デジタル表示部に現在の室温を表示
設定温度/火力ランプ (赤)	
点灯	デジタル表示部に設定温度・設定火力を表示 設定温度・設定火力の変更可能
タイマー運転ランプ (緑)	
点灯	タイマー運転中・タイマー点火後1時間運転中
点滅 ((●))	1時間自動消火の10分前、5分前のお知らせ
点灯 ((●))	1時間運転終了により自動消火
換気サインランプ (赤)	
点灯 ((●●))	お部屋の空気の異常により自動消火
点滅	運転1時間ごとに2分間点滅し、換気のタイミングをお知らせ
給油ランプ (赤)	
点滅 ((●●))	油タンク内の灯油が残り少ないことをお知らせ
点灯 ((●●))	油タンク内の灯油がなくなり自動消火

デジタル表示部		表示切換
○室内温度 設定 ●温度/火力 ○タイマー	30分	キーを押すと表示が切りかわります。 1 2 3
○室内温度 設定 ●温度/火力 ○タイマー	30分	
○室内温度 設定 ○温度/火力 ●タイマー	30分	
●室内温度 設定 ○温度/火力 ○タイマー	30分	
○室内温度 設定 ○温度/火力 ○タイマー	30分	
○室内温度 設定 ○温度/火力 ○タイマー	30分	
■設定温度表示 自動運転 (12℃~30℃を表示) (例)設定温度20℃ ■設定火力表示 手動運転 (H1~H9を表示) (例)設定火力H1 ■タイマー設定時間表示 (残り時間) (30分~24時間) (30分単位で表示) (例)5時間30分後に運転開始 ■室内温度表示 (0℃~35℃を表示) (例)現在の室温18℃ (室温が0℃以下のときでも、0℃を表示します。) ■タイマー運転による1時間自動消火 (0Fを表示) ■E9表示 対震自動消火装置の作動 再度、点火操作をしてください。 ■その他のE表示：途中失火・着火不良・電気回路や部品の故障 (数字をメモしてお買い求めの販売店にご相談ください。)		

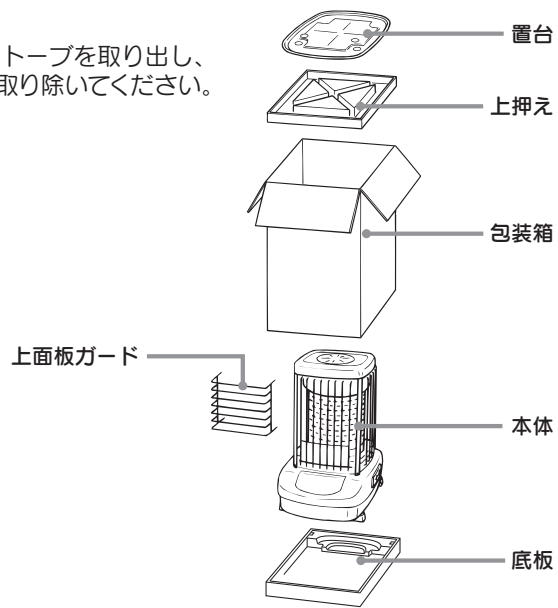


4 使用前の準備

開こんと部品のセット

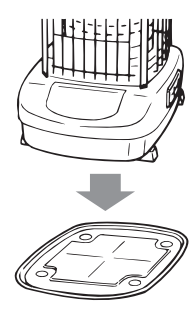
開こん

包装箱からストーブを取り出し、パッキン材を取り除いてください。



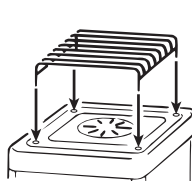
置台の取付け

置台の刻印「正面」とストーブの正面を合わせ、ストーブの脚を置台の凸に入れてください。



上面板ガードの取付け

上面板の4つの穴に上面板ガードの足を入れてください。



使用燃料

燃料は必ず灯油（JIS 1 号灯油）を使用してください。

- **危険** ガソリンなどの揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- **注意** 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は絶対に使用しないでください。
- 添加剤や助燃剤などは使用しないでください。
- 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。

灯油とガソリンの見分けかた

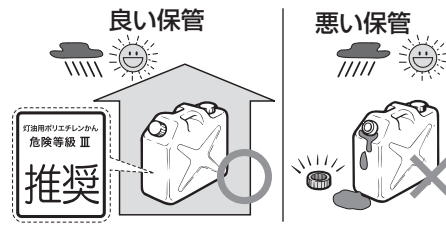
指先に燃料をつけ、息をふきかけます。（火の気のない所でおこなってください。）



灯油はぬれたまま
ガソリンはすぐ乾く

正しい灯油の保管方法

- 火気、雨水、ごみ、高温、日光を避けた場所で、保管してください。翌シーズンに持ち越さないようにしてください。
- 紫外線を通しにくい色付きの灯油用ポリタンク（推奨マーク付）を使用してください。乳白色のポリタンク（水用）は使用しないでください。
- ふたは、しっかり閉めて保管してください。但し、灯油は紫外線だけでなく温度でも変質するので、推奨マーク付の灯油専用容器でも日なたには放置しないでください。日なたに放置すれば変質灯油になってしまいます。



良い保管
悪い保管

灯油用ポリタンクかん 危険等級Ⅲ
推奨


不良灯油(変質灯油・不純灯油)とは…

変質灯油

- 昨シーズンより持ち越した灯油
- 温度の高い場所で保管した灯油
- 日光のあたる場所で保管した灯油
- 乳白色のポリタンクで保管した灯油
- 灯油用ポリタンクのふたが開けてあった灯油


不純灯油

- 水やごみなどが混入した灯油
- ガソリン、軽油、シンナー、天ぷら油、機械油などが混入した灯油
- 灯油以外の油を入れたことのある容器に保管した灯油
- 水抜剤や助燃剤を添加した灯油



不良灯油(変質灯油・不純灯油)の見分けかた

- 2つのコップを用意し、片方には水、もう片方には灯油を入れます。その2つのコップの背後に白紙をあてて色を比較し、灯油に色が付いていたら変質灯油の可能性があります。
- 変質灯油になるとうす黄色をおびた色になったり、すっぱい臭いがしたりします。
- 水が混入した不純灯油の場合は、水が下にたまり灯油と水が分離した状態になります。



白い紙
水 灯油

※保管の状態によっては、無色透明でも灯油が変質している場合があります。

■ 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、機器の故障の原因になります。

- 気化筒にタールがたまり、白煙が出て点火しにくくなったり、強い臭いがして、消火しにくくなります。
- 異常燃焼や途中消火など故障の原因になります。

■ 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- 油タンク内の灯油を抜き、きれいな灯油で2～3回洗ってから使用してください。（悪い油が残っていると再発します。）
- 悪い油を抜き取っても効果のないときは、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意

- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 不良灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

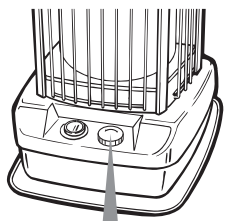
給油

- **注意** 給油は必ず消火してから火の気のないところでおこなってください。

給油の手順と注意

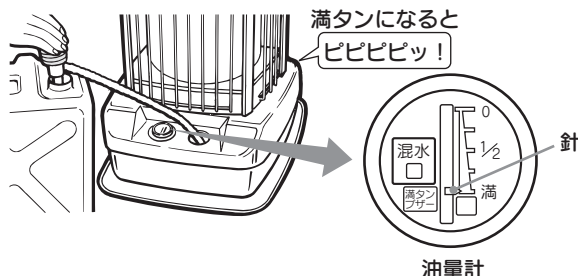
給油口ふたを取りはずす

- 給油口ふたを〈左〉にまわして取りはずしてください。



給油する

- 市販の給油ポンプなどを使用して、油量計を見ながら給油してください。
- 油量計の針が「満」をさしたら給油をやめ、それ以上灯油を入れないでください。



- 油量計の針が「満」付近になりますと、満タンブザーの電子音〔ピピピッ（約5秒間）〕でお知らせします。満タンブザーが鳴りはじめたらすぐ給油をやめ、あふれさせないように注意してください。
- 電源プラグがコンセントに差しこまれていないと、満タンブザーははたらきません。

給油口ふたを締める

- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油は、よくふき取ってください。

〈GH-C19NSタイプの場合〉

別置油タンク（別売品）に給油してください。手順などくわしくは、別売品「オイルレベラー OL-1」に付属の「取扱説明書」をご覧ください。

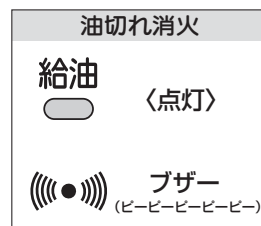
- **注意** 満タンブザーの電子音にたよらず、必ず油量計を見ながら給油し、あふれさせないように注意してください。
- 給油のときは、保管容器内の水やごみが油タンクに入らないよう注意してください。ストーブの損傷や故障の原因になります。

灯油が少なくなると……

- ご使用中、油タンク内の灯油が少なくなると、給油ランプの点滅とブザーで給油の予告をします。早めに給油してください。給油しないで使用し続けると、油切れとなり自動消火し、ブザーと給油ランプの点灯でお知らせします。



GH-C19Nタイプ
約15分～43分 燃焼継続
GH-C12Nタイプ
約24分～57分 燃焼継続

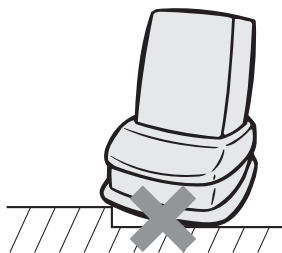


- **注意** 灯油がなくなって消火した場合は、必ず給油してから点火操作をおこなってください。給油をしないと再運転できません。

点火前の準備と確認

水平な場所に設置

- 水平で安定のよい床の上に設置してください。

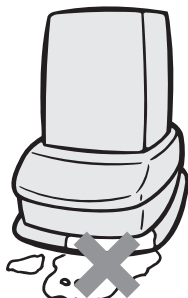


注意 傾き・振動注意

- 水平に設置されていれば、対震自動消火装置は自動的にセットされます。
- 傾斜した場所や、振動の激しい場所で使用すると、燃焼不良の原因になります。また、対震自動消火装置が正しく作動しません。

油漏れの確認

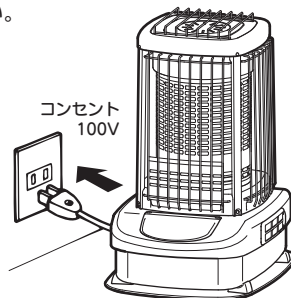
- 置台・油タンクに、油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか確認してください。



- 油漏れのときは、使用を中止し、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。

電源の接続

- 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差しこんでください。



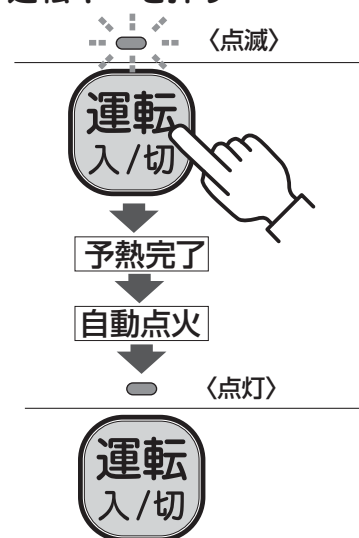
注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は、必ず適正配線された単相 100V のコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。
- 電源プラグの抜き差しは、必ずプラグを持っておこなってください。
- ほこりなどの付着がないか、ときどき点検・掃除をしてください。

5 使用方法

点火

運転キーを押す



- 運転ランプが点滅します。
- 予熱が完了すると自動点火し、運転ランプは点灯にかわります。
- 着火したら、燃燒状態を確認してください。

- 着火時、放電音と同時に着火音を発しますが、異常ではありません。
- 点火操作から放電（着火）まで、室温により多少変化しますが、約2分の予熱時間がかかります。なお、室温が低いときや電源電圧の変動により、さらに予熱時間がそれ以上延びることがあります。
- 点火時や消火時には、少し白煙や臭いができますが異常ではありません。（寒いときの点火操作時には、通常より多めの白煙がでます。）
- 着火後2～3分は赤火がでますが異常ではありません。
- ほこりの多いところ・超音波加湿器を使用しているところでは、炎の色がピンク色になりますが、異常ではありません。
- 最大火力から最小火力にかわるのにしばらく時間がかかります。

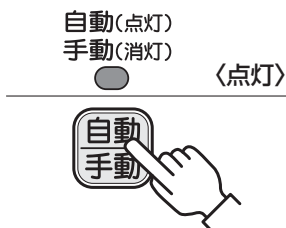
■初めてのご使用・シーズン初めの初使用時には

- 送油経路の空気だまり（エアロック）により、着火時に白煙がでたり、炎が黄炎になったりリフトしたり立ち消えることがあります。この場合、点火操作を2～3回くりかえしてください。
- 炎の色や点火プラグ・炎検知プラグのまわりがピンク色になることがあります。これは、耐熱塗料やほこりなどが焼けるためで異常ではありません。
- 耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。

室温の調節

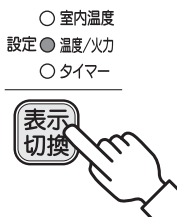
自動運転

自動・手動切換キーを押す



- 自動・手動切換キーを押すことでランプが点灯し、設定された温度を保つように自動運転します。

表示切換キーを押す



- 設定温度を変更したいときは、表示切換キーを押して、設定を温度／火力ランプに合わせ、温度／火力キーの または を押して希望の温度に合わせてください。

- 設定温度は 12℃～30℃の範囲でセットできます。
- 一度セットすると、設定温度は記憶されます。未セットの場合、電源プラグをコンセントから抜いたときや停電後再通電したときは、自動的に 20℃にセットされています。

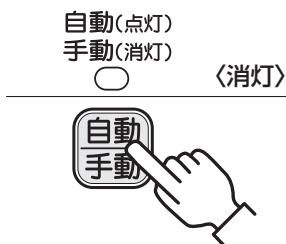
温度／火力キーを押す



- ご注意**
- 暖房負荷が少なく、弱燃焼でも暖まりすぎる場合（気温が高いとき、日あたりのよいお部屋、小さいお部屋、密閉のよいお部屋）は、セット温度よりも室温が上昇します。
 - ルームサーモセンサーはストーブ周辺の温度を感知していますので、お部屋の温度計とは数値が一致しないことがあります。
 - ストーブに直接日光やすきま風があたっていたり、他の光熱器具の影響を受けている場合には、ルームサーモセンサーが正確に作動しません。
 - 燃焼空気取入口のエアフィルタや、内部フィルタがごみやほこりで目づまりすると、ルームサーモセンサーが正確に作動しません。

手動運転

自動・手動切換キーを押す



- 自動・手動切換キーを押すことによってランプが消灯し、室温に関係なく設定した火力で運転します。

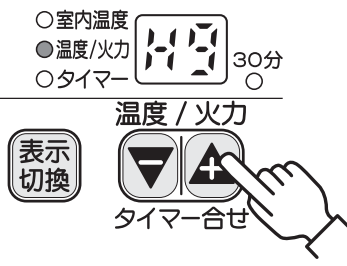
表示切換キーを押す



- 設定火力を変更したいときは、表示切換キーを押して、設定を温度／火力ランプに合わせ、 または を押して希望の火力に合わせてください。

- 設定火力は最小 H1 ～ 最大 H9 までの9段階でセットできます。
- 一度セットすると、設定火力は記憶されます。



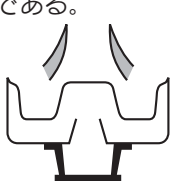
温度／火力キーを押す



炎の状態

●着火しましたら、燃焼状態を確認してください。

●出荷時に燃焼状態を調節してあります。

<p>○ 正常燃焼 青炎あるいは、青い炎に少し黄色い炎が混じっている。</p> 	<p>✕ 黄火燃焼 黄色い炎が連続して全周にでている。</p>  <p>エアフィルタの目づまり</p>	<p>✕ リフト燃焼 青い炎がバーナより離れ、今にも立ち消えしそうである。</p>  <p>油タンクに水が入った</p>
--	---	--

消火

運転キーを押す

○ 〈消灯〉



●運転ランプが消灯し、同時に消火します。

- 消火後、本体内部が冷却するまで送風を続けます。送風がとまるまで、電源プラグを抜かないでください。
- 消火操作後は、火が消えていることを確かめてください。

■消火後すぐに再点火するとき

- 消火直後に再点火すると、着火音が多少大きくなります。
- むやみに点火、消火をくりかえすと、臭いの原因になります。

- **⚠注意** 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 緊急時以外に、ストーブに強い衝撃をあたえたり、電源プラグを抜いての消火はしないでください。

タイマーの使用法

タイマー時間の合わせかた

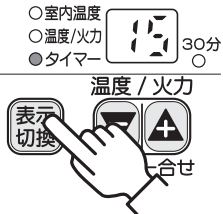
運転キーを押す

⚡ 〈点滅〉



- 運転キーを押すと、運転ランプが点滅し運転動作になります。(運転中はこの操作はいりません。)
- 表示切換キーを押して、設定をタイマーランプに合わせてください。点火までの時間が表示されます。

表示切換キーを押す



タイマー合せキーを押し、タイマー時間を合わせる

- 室内温度
- 温度/火力
- タイマー



(例)
現在時刻が夜の10時で、翌朝の6時30分に点火したい場合は、8時間30分後に合わせます。

- タイマー合せキーを押して点火するまでの希望時間数に合わせてください。
- ▼**または**▲**を押すと30分単位でタイマー設定時間がセットされ、30分の場合はランプで表示されます。
- タイマー時間は最大24時間後までの30分きざみでセットできます。
- 一度セットすると、タイマー合せキーの操作で時間変更しないうえ、設定時間は記憶されます。

タイマー運転のしかた

タイマー運転キーを押す

タイマー
○ 〈点灯〉



- 運転ランプが消灯し、タイマー運転ランプが点灯します。
- 合わせた時間数が経過すると、自動的に運転を開始し、運転ランプが点灯します。
- タイマー運転を解除したいときは、運転キーを押してください。タイマー運転ランプが消灯します。



- タイマー運転キーを押したあともタイマー合せキーを押せば点火したい希望の時間をかえることができます。
- タイマーセット後は、デジタル表示部に点火するまでの残り時間(30分単位)が表示されます。
- 室内温度が低い場合は、タイマー設定時間よりも5~15分早く自動的に運転を開始します。
- 電源プラグをコンセントから抜いたときや停電後再通電したときは、タイマー運転しません。通電後、再セットしてください。

- **⚠注意** 外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、しないでください。予想しない事故が発生するおそれがあります。
- タイマー運転は、特に周囲に可燃物がないことを確認してください。

タイマー運転について

点火後1時間で自動消火します。

- 安全にご使用いただくため、点火後1時間で自動消火し、ブザーと点灯表示の点灯でお知らせします。(タイマー運転ランプは点灯)



続けて運転したいときは、タイマー運転キーを押してください。

- **警告** 長時間連続して運転するときは、お部屋の換気に十分気をつけてください。

6 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。

すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因	処置方法
対震自動消火装置	●強い地震や振動、衝撃を受けたとき E9	●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、本体の損傷、灯油のあふれなど異常がないことを確認した後、点火操作をしてください。
不完全燃焼防止装置	●部屋の換気不足のとき ●エアフィルタや内部フィルタの目づまりによる燃焼用空気不足のとき E4	●日常の点検・手入れ(9~10ページ参照)をしてから点火操作をしてください。 ●良質の灯油を使用してください。 ●水検知計の点検、給油口フィルタの掃除をしてください。 ●エアフィルタや内部フィルタを掃除してから点火操作をしてください。
点火安全装置 燃焼制御装置	●点火ミスをしたとき ●異常燃焼をしたとき E2・E3・E4	●症状が改善しない場合は、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。
停電安全装置	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	●通電後、点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。

7 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

- **注意** ● 燃焼部の分解、電気部品の分解や市販品との交換は絶対しないでください。
● 故障・破損したものは使用しないでください。

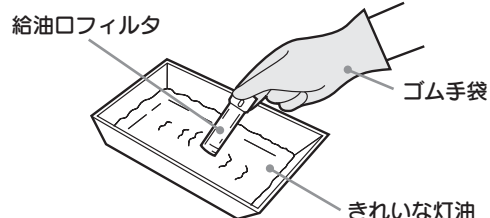
ストーブとストーブ周囲(使用ごと)

- **警告** ストーブの周囲には、燃えやすいものを置かないでください。
- 置台に油のたまりがないか、油タンクは油漏れや油のにじみがないか、ときどき点検してください。また給油の際にこぼれた灯油は、必ずふき取ってください。
- ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。ストーブはいつも清潔にしてお使いください。

- **注意** ● 油漏れのある場合は、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

給油口フィルタ

給油口フィルタはときどき点検し、汚れていたら油タンクから取り出し、中のごみやほこりを除去してから、きれいな灯油で洗ってください。

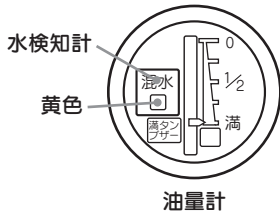


- 水洗いは絶対しないでください。

油タンク

水検知計を点検する

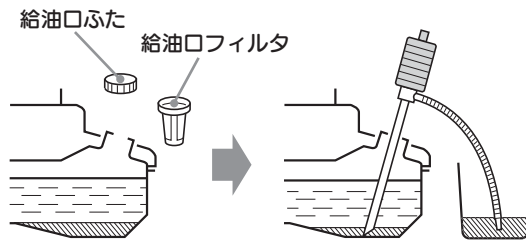
- 油タンクに水がたまると、水検知計に黄色い表示がでて水のたまりをお知らせします。



- 給油時に点検してください。

水抜きをする

- 黄色の表示が出始めたら、給油口ふたと給油口フィルタを取りはずし、給油ポンプなどで油タンクの底にたまった水やごみを抜き取ってください。



給油口ふたを締める

- 給油口フィルタをもとどおりにセットし、給油口ふたを締めてください。

- こぼれた灯油はよくふき取ってください。

油タンクの水抜きをしないで使用していると、気化筒に水が吸い込まれ、消火して炎検知装置がはたらき、ストーブは自動的に停止します。このようなときは、次のようにしてください。

油タンクにたまった水を上記の手順にしたがって抜き取る

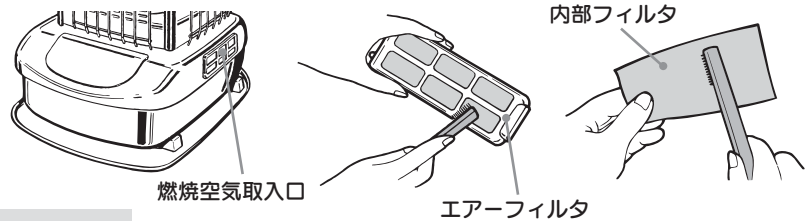
〈点火〉の項にしたがって点火操作をする (7ページ参照)

- 水抜き後の点火は、送油経路内に入り込んだ水のため、1回では着火しません。2~3回点火操作をくりかえしてください。強い臭いがでますが、しばらくすると正常にもどります。

エアフィルタ (週に1回以上)

- **注意** 燃焼空気取入口のエアフィルタや、内部フィルタがごみやほこりで目づまりすると、異常燃焼のおそれがあります。

- ケース右側面部にあるエアフィルタを手前に引き抜いて、掃除機またはブラシなどで、きれいにゴミやほこりを取り除いてください。水洗いも可能です。よく水をふき取ってください。内部フィルタも取り出して、ほこりを落としてください。



- 週1回以上、点検して掃除してください。
- 縫製工場や紡績工場などでの使用は、毎日点検・掃除をしてください。

対震自動消火装置 (月に1回以上)

燃焼中に本体をゆすり、対震自動消火装置が作動して消火するか確認してください。作動するとデジタル表示部に **E9** を表示します。

- **注意** ●通常の使用時に、対震自動消火装置を作動させて消火することはしないでください。
- 対震自動消火装置は絶対に分解しないでください。

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、器具の点検が必要です。

2年に1回程度、シーズン終了後などにお買い求めの販売店または、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL 03-3499-2928) でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。(有料)

愛情点検



こんな症状はありませんか

長年ご使用の石油ストーブの点検をぜひ!



- 油もれがする。
- 強い臭いがする。
- 運転中に異常な音がする。
- 白煙が出てとまる。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを外して、必ずお買い求めの販売店にご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買い求めの販売店にご相談ください。

9 故障・異常の見分け方と処置方法

- 次の表にもとづいて、お確かめください。
- 処置方法により処置しても良くならないときは、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。

原因	現象					処置方法
	運転・点火しない	白煙がでてこまる	使用中室内が臭う	使用中消火する	赤火で燃える	
電源プラグがコンセントに差しこまれていない	●					コンセントに確実に差しこむ
停電中である	●					通電されるまで待つ
対震自動消火装置が作動した 				●		再点火操作をする／安定した場所で使用する
油タンクに灯油がない（給油ランプ点灯）	●			●		給油する
油タンクに水が入っている	●	●		●		水を抜いて点火操作を2～3回くりかえす
風のある場所で使用している			●			風のあたらない場所に移動する
ほこりの多い場所で使用している					●	ほこりの少ない場所に移動する
放電プラグから火花が飛ばない（高圧ケーブルの漏電）	●	●				お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にて修理を依頼する。
燃焼用送風機の故障	●			●		お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にて修理を依頼する。
エアフィルターや内部フィルタが目づまりしている					●	エアフィルターや内部フィルタを掃除する
過電流防止装置が作動した	●			●		お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にて修理を依頼する。
不良灯油（変質灯油・不純灯油）を使用している	●	●	●			良質の灯油（JIS 1号灯油）と入れかえる（販売店に連絡する）
不完全燃焼防止装置が作動した 					●	十分換気をし、エアフィルターや内部フィルタを掃除する

次のような現象は故障ではありません。

- 修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現象	説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙や臭いがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。しばらく窓をあけて換気をしてください。
	初めて使用するときや、シーズン初めの初使用時に1回で着火しない。	送油経路の空気だまりなどにより、1回で着火しないことがあります。2～3回点火操作をくりかえしてください。
	すぐに点火しない。	石油ガス化方式のため予熱時間が約2分必要です。（予熱時間は室温や電圧変動により多少延びることがあります。）
	点火時や消火時に白煙や臭いがでる。	点火時や消火時の多少の白煙や臭いは異常ではありません。
	燃焼開始時や消火後に「ピチ・ピチ」という音がする。	器具本体が熱により膨張、収縮するためです。
燃焼時	点火プラグ・炎検知器が赤くなる。	炎に熱せられ赤熱するためです。
	炎がオレンジ色に輝く。	下記のような場合、炎がオレンジ色に輝くことがありますが異常ではありません。 ●海岸に近い場所など空気中に塩分が多い場合 ●空気中にほこりや水分が多い場合 ●超音波加湿器を使用している場合

10 部品交換のしかた

注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店または、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

- 部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ずコロナ純正部品とご指定ください。
- 純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、器具を損傷したり思わぬ事故の原因になります。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

■特に消耗・劣化しやすい部品 （高温炎中で使用される部品） ●プラグセット ●放熱器	■長期間の使用により 消耗・劣化しやすい部品 ●カップセット	■変質灯油・不純灯油などの不良灯油の 使用により劣化しやすい部品 ●給油口フィルタ ●プラグセット ●気化筒 ●電磁ポンプ ●ポンプフィルタ
--	---	--

11 保管（長期間使用しない場合）・廃棄のしかた

おしまいになるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

- 1.電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 2.エアフィルタや内部のフィルタのほこり、汚れを取り除いてください。（10ページ参照）
- 3.油タンクの灯油をすべて抜き取り、給油口フィルタもきれいな灯油で洗ってください。中に水分やごみが残ったままになっていますと、油タンクが腐食する原因になります。（9～10ページ参照）
- 4.ストーブのごみやほこりを掃除機などで取り除いてください。
- 5.塗装部分は、しめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
- 6.ポリ袋などをかぶせて、乾燥した場所に水平に保管してください。

- **注意** 長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず灯油を抜いてください。傾けたり、横倒しの状態では絶対に保管しないでください。火災のおそれがあります。
- 取扱説明書も大切に保管してください。

廃棄のしかた

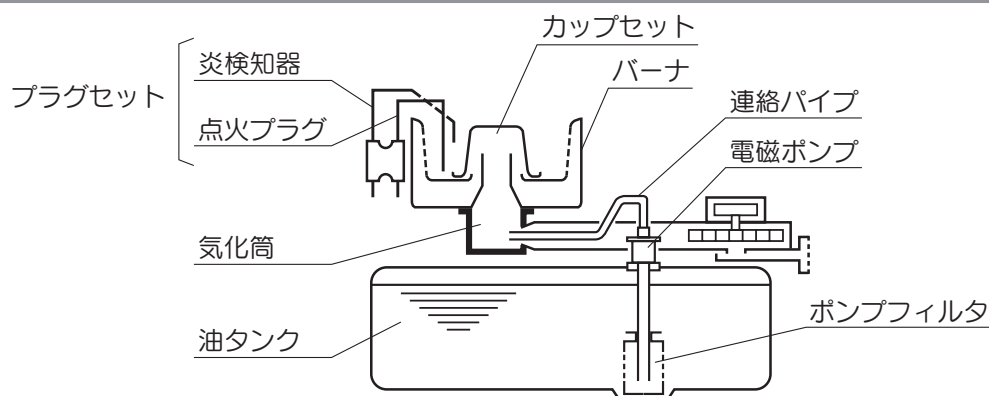
- 廃棄処分するときは、各自治体の指示に従ってください。
- 必ず油タンク内の灯油を抜きとってください。
- 灯油の廃棄処分については、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

12 仕様

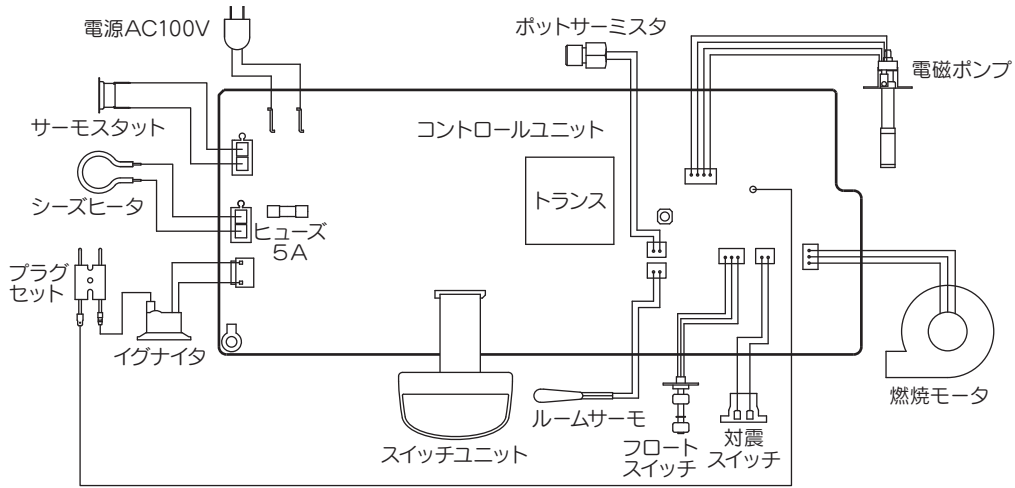
型式の呼び	GH-C19N	GH-C12N
種類	気化式・自然対流形	
点火方式	高圧放電点火	
使用燃料	灯油（JIS 1号灯油）	
燃料消費量	最大	18.73 kW (1.82 L/h)
	最小	6.07 kW (0.59 L/h)
暖房出力	最大	12.3 kW (1.20 L/h)
	最小	4.63 kW (0.45 L/h)
油タンク容量	18 L	
燃焼継続時間	約 9.8 時間	約 15.0 時間
暖房のめやす	木造 79m ² (48畳)まで/コンクリート 109m ² (66畳)まで	木造 51.0m ² (31畳)まで/コンクリート 71.0m ² (43畳)まで
外形寸法	高さ747mm 幅470mm 奥行622mm (置台を含む)	高さ699mm 幅470mm 奥行622mm (置台を含む)
質量	19.5 kg	19 kg
電源電圧及び周波数	単相 100V 50/60 Hz	
定格消費電力 50/60 Hz	点火時 870/870 W	
	燃焼時 17/17 W	燃焼時 13/13 W
待機時消費電力	0.6W	
電流ヒューズ	管形ヒューズ 5A	
安全装置	対震自動消火装置 点火安全装置 燃焼制御装置 停電安全装置 不完全燃焼防止装置	
付属品	置台・上面板ガード	

備考 暖房のめやすは、一般社団法人 日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

送油経路図

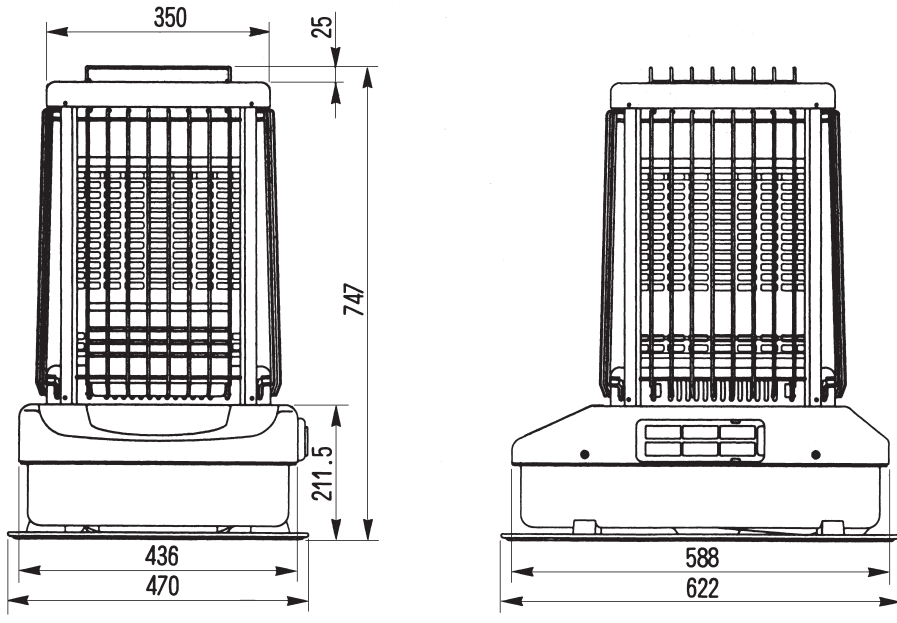


配線図



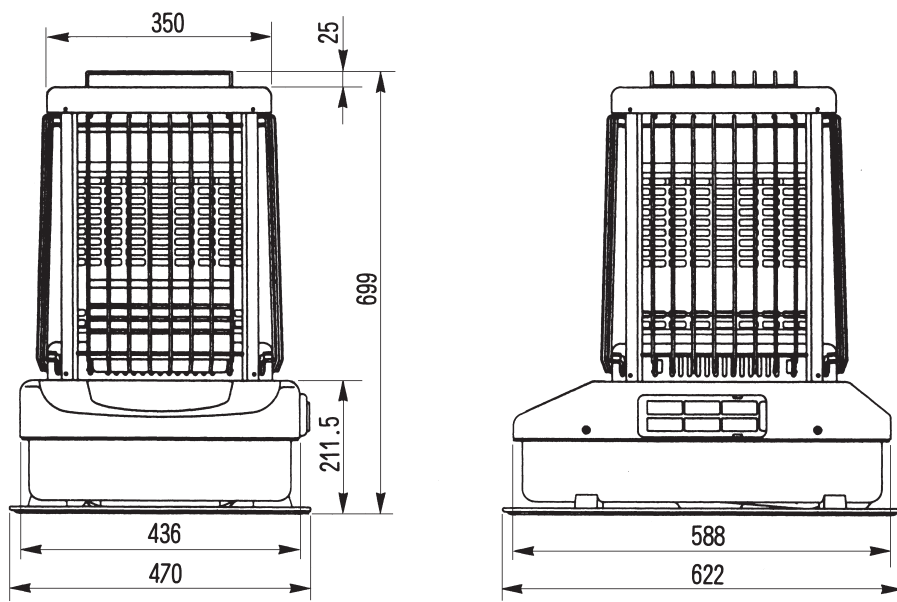
外形寸法図

GH-C19N



単位：mm

GH-C12N



単位：mm

13 アフターサービス

保証について

- このコロナ石油ストーブには保証書がついています。
「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受けとりになり、大切に保管してください。
- 保証期間はお買いあげいただいた日から1年間です。
- 次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
 - 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
 - 誤った使用方法による故障や事故。
 - シリコンが原因の修理・シリコン配合の商品を使用したとき
- この製品は日本国内専用です。電源電圧や電源周波数の異なる外国では使用できません。また、アフターサービスもできません。

修理を依頼される時

- 本書の「故障・異常の見分け方と処置方法」（11ページ参照）の項にしたがって調べても良くならないときは、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - 品名
 - 型式の呼び } 仕様（12ページ）をごらんください。
 - お買いあげ日
 - 故障状況（できるだけ具体的にご連絡ください。）
 - ご住所・お名前・電話番号
- 修理に際しては、保証書をご提示ください。
保証期間中であれば保証書の規定にしたがって無料修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは

- お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後6年です。

■修理に出される時は

- 輸送時や運搬時に油タンク内に灯油が残ったままですと、傾きや振動で灯油がこぼれることがありますので、必ず抜き取ってください。

14 排気筒の取付け

排気筒(別売品)の取付け

- せまい部屋、換気の悪い部屋でご使用になる場合は、排気筒の取り付けをおすすめします。
- 排気筒を取り付けるときは、当社指定の「排気筒セット」（別売品）HG-10Nを必ず使用してください。
- 取り付けなどの詳細は「排気筒セット」の取付説明書をよくお読みになってください。

15 お客様ご相談窓口



お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください。

電話番号は変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号 365日24時間受付）

TEL フリーダイヤル  **0120-919-302**

携帯電話 ナビダイヤル  **0570-550-992**
PHS

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。